

多様な学習形態・利用スタイルに応じた利用環境（検討レジュメ）

1 28期協議テーマ「これからの都立図書館に必要な利用環境」の背景・課題（案）

27期課題 （継続）	（1）社会的環境変化に関する課題（デジタル化・電子化等） 例：人口構成の変化、働き方の変化、情報通信機器（PC、スマートフォン等）の普及、ICTを活用した情報提供の拡がり、情報利用行動の変化 （2）実績並びにその評価に関する課題（利用者数減少等）
28期課題 （新規）	（3）都立図書館の変化の必要性・社会への応答性 例：図書館としての魅力向上、 社会で顕在化してきているニーズや将来の潜在的ニーズ（高齢者の学習意欲、社会人のグループ活動、在宅勤務者のスキルアップ）へ応答

2 学習・利用形態部会の検討で留意した点

- ・既存リソース（蔵書やデジタルコンテンツ、職員のサービススキル等）の活用も視野に入れる。
- ・区市町村立図書館や国立国会図書館の役割・サービス内容も踏まえ、都立図書館が取り組むべき内容か、という点を吟味する。
- ・既存利用者（静けさを求める利用者等）へも配慮した内容とする。
 ➡資料2 「第2回 学習・利用形態部会 検討のまとめ」（以下「部会まとめ案」とする。）

3 第3回定例会における検討ポイント

- ・1の課題や、2の留意点との対応、および修正・追加点など。
- ・「部会まとめ案」の取組を進める上での課題（既存施設での実現可能性等）や取組時期（「早期の取組が必要」「将来の改築等検討時の案とする」等）について
- ・部会で複数案が出た点の検討（「部会まとめ案」A1-3）
- ・その他